

銀漢亭日録



伊藤伊那男

14日(火) 銀漢賞選句。伊那の井月カレンダーの一句鑑賞を送る。その他、雑用に追われ「梶の葉句会」を失念。慌てて選句。店は予約なく閑散。水内慶太、夏緒さんなど。

15日(水) 銀漢句会」あと十八人。のりを、宗一郎、小石、有二さんなど。賑やか。

16日(金) 部屋に黒い蜘蛛が一匹棲んでいて、時々机に顔を出す。殺さずに見ている。ハロウィンまでは……。店、俳句愛好家という稲垣さん一党六名。ORIX時代の部下六人など。

17日(土) 十時、運営委員会。昼、「いもや」の天ぷら。これ食べると満腹で眠くなるのだ……。銀漢本部句会」五十三人。新参加者二名。あと、「上海庭」にて親睦会。

18日(日) 宮澤は早朝から鶴岡へ。「うみやまあひだ」上映初日の挨拶へ。終日家にて雑務、執筆。夜、久々、桃子、孫達と夕食。

20日(火) 十四時、鳥居真里子さん句会に発行所貸し出し。十九時より、店、「炎環」の山岸由佳さんの現代俳句協会新人賞受賞の祝賀会。その前、窪田明さん、池内けい吾さんと見え、句集の最終校正。伊那北高校同窓・唐沢由枝さんなど、南箕輪町の町会議員さんなど七名寄ってくる。皆川文弘さんが高校同期で俳句に興味ありという二人を案内して下さる。

21日(水) 坪井研治さんが長年の友人と来店。慶應大卒とのこと、卒年、学部、クラスなどを聞き合うと、何と私の同級生の田家君。奥さんも同級生の増田さんと！美人であった。夫人の顔は覚えていたが、田家君の思い出は無い……。『天為』編集部の福岡るびさんの還暦祝いの会。他結社の方も来て十数名。高校同期の定例会「三水会」、七名。あと、対島康子さん、展枝、いつみ、好記、敦子さんと餃子屋。

23日(金) 春耕」の「朱鷺」の句を選句。店、気仙沼の和人さん上

杯を手土産に。1975年のワインも。

31日(土) 午後、日本橋で大溝さんに星雲集選句の稿渡す。あと「離句会」十三人。題の「からすみ」「シシヤモ」「鯛大根」と握り。家は三日続きでハロウィンの集いとて九家族、五家族、五家族が来訪。

11月1日(日) 春耕同人句会」を休み、十二号の選句、原稿書きなど。十七時、京王プラザホテルロビーの喫茶室にて「銀漢賞」最終選考会。大和、禪次、唐沢静男、飯田真理子の五人。終わって「土風炉」にて慰労会。

2日(月) 午前中原稿。銀行で手間取る。店、倉田有希さん幹事の写真展の展示作業を待たせしめ。写真展の方々、權未知子さん久々。発行所「かさ、き俳句勉強会」あと十二人。閉店後、權未知子、阪西敦子さんと餃子屋。

3日(火) 終日家。「銀漢」十二月号の原稿書き続ける。夕方から桃子の三十八歳の誕生祝い。隠岐島の牡蠣。ステーキ、とっておきの台湾の巨大からすみなど。ヴーヴクリコ。この娘もいい年になった……。

4日(水) 末子の七五三祝いとて家族は明治神宮へ。私は仕事があるので不参加。快晴。お手伝いの中根さん、私の部屋のもの全部洗濯する！と。店、「宙句会」あと九人。「きさらぎ句会」あと九人。野村證券京都支店の同期の東塚君久々。

5日(木) 昼迄雑用。店、北村監督他。井月顕彰会の面々。三月の「井月忌の集い」の打ち合わせ。その他賑わう。

6日(金) 銀漢賞」選考評。新年号からの新企画「自句自解」教編出版予定の『そして京都』の再構成作業。駅への通路、「そば処増田屋」から出てくる小澤征爾さん親子見かける。皆川文弘さんから轟屋の店だと聞いていたが、確かに……。店、「大倉句会」あと十四人。山崎祐子、山田真砂年さん、来年の「いわき海の俳句大会」の打ち合わせ。

7日(土) 九時前の新幹線にて京都へ。「雲の峰」年次総会の講師。京都駅にて土産の玉乃光雄町を買い、丸太町の「竹邑庵太郎敦盛」

京にて清人さんが牡蠣を取り寄せ生で蒸して好評。二十人程か。発行所「金星句会」あと五人。

24日(土) 東京駅発八時過ぎの新幹線にて新高岡。高岡にて武田さん、大溝さんと合流。森羽久衣さんの車にて加賀藩菩提寺・端龍寺。ガイドさんにたつぷり案内して貰う。あと国府跡……雨晴海岸を経て水見へ。「割烹 秀月」あともう一軒。雨、激しかったり止んだり……北陸！ホテル信賞館泊。二十三時就寝。健全！

25日(日) 六時起き、快晴。七時発。能登郡町の羽久衣さんの実家へ。母上にお目にかかり、朝食をいただく。前方後方墳の能登王の墓をはじめとする三十数余の古墳に圧倒される。あと、羽咋神社を参拝し金沢駅へ。「春耕」一門と合流し、三台のバスにて兼六園、千里浜などを廻り、能登ロイヤルホテルへ。朝妻力、禪次さんと同室。二句出し句会。十九時より祝宴。祝辞。部屋にて二次会。丁度十三夜と。羽久衣さん畑のピーナッツ茹でて届けてくれる。

26日(月) 九時発、近くの、「春耕」波朗主宰の菩提寺・明運寺にて句碑除幕式。能登はやさし海の底まで小春風」除幕の綱を引く。本堂にて祝賀会。金沢に出て解散。禪次、坪井さんと近江町市場の寿司屋。福正宗をしこたま飲む。駅ビルのおでん屋に寄る。十九時前の新幹線に乗車。

27日(火) OPUS」より依頼の同人評、昨日が締め切り日にて大急ぎで執筆。二百ページ分。「俳壇年鑑」のアンケートが未着とて、能登で催促受け、出す……、ばたばたと。ひまわり館「萩句会」選句へ。店、宮澤と伊勢神宮の河合宮司。河合様、銀漢へ基金置いて行つて下さる。新年号のエッセイのお願いもしてあり、恐縮。「街」の方三人、対島さん……、全体は閑散。

28日(水) 礼状数枚。選句遅れている。店「離句会」十人程。文弘さん、山崎祐子さん……など。

29日(木) 正午、発行所「銀漢賞」予選。七編ほどに絞り、再読へ。桃子の誕生祝いに隠岐島の生牡蠣。大小合わせ六十個ほど注文。これは絶品の岩牡蠣。冷凍技術も最良のもの。店、鈴木忍ママの日。NHK、OBの水津幸一さん。水内慶太さんが鯖鮓、穴子鮓、蟹二

あつもりそば2斤！この会に来る時はいつもここ。「ほんまに食べはりますか？生卵二つ入りますけど」「はい、食べます」。

「雲の峰」にて「井上井月こぼれ話」四十分ほど。二年ぶりのこの会、楽しいこと！力さんに感謝。最近、会員になられた住田潮さん、大学同期と判明。筑波大教授のあと慶應教授。奥様はバイオリンの住田眞理子さんと、食事会の前に演奏してください。宴会のあと例によってラウンジで句会。題「椎の実」で一句出し。《椎の実を食べ倍ほどの殺散らす》

8日(日) 雨。酒のダメージ僅少。今日は伏見稲荷の大祭とて、宮澤が京都へ向かっている。このところ行き先が重なる。バス二台で出発。賀茂神社の御祖社・御蔭神社へ。八瀬の奥。葵祭の前に御霊を下鴨神社に移す。世界遺産でもある。近江坂本へ。日吉神社門前の「芙蓉園」にて昼食。穴太積みの中。西教寺へ。四十年前程前に比叡山横川から駆け下りて訪ねた記憶あり。明智光秀の墓所。天台宗盛宗の総本山。紅葉見事。霧の中の比叡山根本中堂へ。ここも久々。紅葉の中。十七時過ぎまで。京都駅にて解散。「雲の峰」の方々に感謝。すぐ某中の茶店に行き、京都時代の仲間W女と酒盛り。「グジ」その他、慌ただしく。十九時ごろの新幹線にて帰宅。

9日(月) 店、武田禪次さん、長井さんなど。もともと三菱商事の仲間だが、今井麦さんを通じて、結局「銀漢」で俳句を始めるという顔合わせ。一ヶ月前に客として来店した橋野さんが、入会申し込み書を持って来店してください。以上、二件とも何とも嬉しい話。

10日(火) 十二月号校正。店、俳人協会での講演会あとの本井英、行方克己、山田真砂年、谷岡健彦さんなど。フジテレビ時代の松岡みどりさん。

11日(水) 初子さんと長さん。ORIX時代の仲間五人。四十年前前のことを懐かしく思い出す。閉店間際、角川「俳句」鼎談あとの高野ムツオ、田島健一、阪西敦子さん来店。高野さんは尊敬する作家。二十時半まで、話に加わる。